

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

- 新たな知識と既習を関連付けながら、学習を定着させることができる。
- 既習の知識や技能の活用の仕方を考えることができる。
- 粘り強く、最後まで自信をもってやり遂げることができる。

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- 学んだことを活用しようとする姿が見られた。

子ども達の実態

- 高学年として、低学年の手本になるとともに、親しまれる6年生になりたいという思いがある。
- 何事にも挑戦し、全力で取り組もうとする。
- 自分に自信をもつこと、長所を見つけることに課題が見られる。

子ども達の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子どもへの指導

- 教科担任制を活用し、個々の課題や困り感を共通理解することで子どもに合わせた学習環境を整える。
- ゴールを明確にした学習を展開する。

目指す子ども達の姿

- 学び合いの中で、自分の思いや考えを深められる。
- 人と人とのつながりを大切にできる。
- 課題に向けて、目的や方法を考え、最後までやり遂げることができる。

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- 1年間の学習の見通しをもち、校外学習や体験学習、出前授業を単元に関連付けて設定し、教科横断的な学習をする。
- 1年生とのなかよし活動(特別活動)で他者意識をもち、実行して次の活動に生かす。
- 相手を受け入れる、認める言葉を集め、温かい言葉に意識を向ける。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- 「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善をする。
- PDCA サイクルを通して、指導と評価の一体化を図る。
- 互いの考えや取組を認め合える場面を学習活動の中に取り入れる。

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

- 校内研修を充実させる。(主体的・対話的で深い学び、学習評価、児童理解)
- 担任、専科、児童専任がチームとして情報共有を積極的に行い連携し、指導を行う。
- 保護者、教師、地域が連携して取り組む。
- 学年研の充実
- 地域とのつながりづくり
- 懇談会等の内容の充実
- OY-P アセスメントの活用

各教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- 自分の考えをもち、相手に分かりやすく伝える力の育成。
- 汎用的な資質・能力の育成
- 体験的な学習の重視
- 自ら課題をもち、その課題を解決する力の育成。
- 情報活用能力の育成